戦前戦後の日本における器楽指導実践のための教員研修に関する研究

最終更新日：2016年4月26日

【プロジェクト代表者】
音楽教育講座
准教授
山中和佳子

キーワード 戦前，学校音楽教育，教員研修，表現活動，器楽活動，指導力向上

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

昭和初期の学校音楽教育に焦点を当て，学校音楽教育における小学校教師の音楽技能及び指導力向上のためにどのような試みがなされていたのかを検討し，当時求められていた教師の音楽的専門性と器楽活動の実態を明らかにすることを試みました。このために，国立国会図書館，東京藝術大学や国立音楽大学の附属図書館，東京文化会館音楽資料室にて，戦前の音楽雑誌『学校音楽』『教育音楽』『ブラスバンド』『音楽倶楽部』『音楽教育研究』等に掲載された教員研修や吹奏楽，器楽活動に関する資料を調査分析しました。

これによって，次の事などを指摘しました。

・大正11年に東京音楽学校卒業者で構成される同声会の役員や学校教師を中心に構成した日本音楽教育協会が設立された。この協会によって，教育音楽に関する諸問題の研究，音楽会講習会並に教育音楽の普及に関する施設，会報の発行，会員の互助，其の他本会の目的に必要な事業が試みられ，戦前の日本の学校音楽教育に関する授業研究や技術の向上指導が促進されることとなった。

・昭和5年頃には教員の音楽実技力を向上させるための講習会が各地で行われていたが，声楽やピアノを扱った内容がほとんどであった。授業研究会においても，鑑賞に関する内容や作曲の試みはなされていても，楽器を使った授業報告はほとんど見ることができなかった。また，昭和9年末から各地で開催された学校音楽教育に関する座談会の議論内容を見ると，器楽の活動がテーマとして提示されることはなかったものの，各テーマの中で楽器を用いた活動について多少は議論が交わされていた様子が見られた。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

戦前の学校教育における教科としての唱歌科に焦点を当てた史的研究はこれまで多くなされてきましたが，当時の教師の音楽技能及び指導力向上を目指した研修会の実態に焦点を当てた研究は管見の限りそれほど多くはありません。この研究をつづけることにより，戦前の教科としての唱歌科から国民学校令による芸能科音楽へ移り変わる際の教師に求められた音楽的専門性を明らかにできると考えられます。特に芸能科音楽への移り変わりには，器楽活動に関する学習内容が明記されたことから，教師に求められた専門性は変化したのではないかと推測されます。従って，この研究は，教員研修に関する史的研究の一端を担う研究として位置づけることができるとともに，日本の学校教育が現在まで求めてきた音楽の授業における教師の指導実践力について歴史的視点から指摘することができると考えています。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成27年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

音楽教育講座・准教授・山中和佳子